実践例　**県立小山高等学校**

教科・科目等　国語科・古典探究（２学年）

本時の目標

わかりやすい説明・質問・板書を考え、担当範囲を授業形式で発表することを通じて、文法事項の理解を深める。
個々人の長所を活かし協力するとともに、相手の心情に寄り添ったよりよい発表のための配慮を心がけ、筋道を立ててわかりやすく説明する。

育てたい資質・能力等

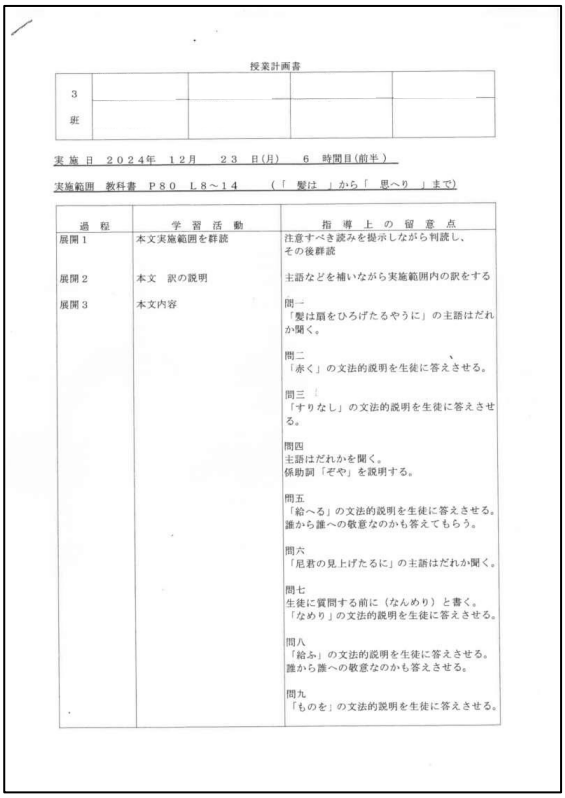
相手が理解しやすいよう論理的に説明したり、相手が説明しやすいように傾聴を心掛けたりすることができる。（技能）

教材　教科書（源氏物語）

展開

※発表までの時間を６時間とし、授業計画立案や教材研究を行う。個性を活かした役割分担を行い、黒板のレイアウトや発問について考える。
●生徒による授業を実施する。各班 20 分ずつで行う。

↑生徒による授業実践の様子



授業計画書

3 班			

実施日　２０２４年　１２月　２３　日(月)　６　時間目(前半)

実施範囲　教科書　Ｐ８０　Ｌ８～１４　（「　髪は　」から「　思へり　」まで）

過　程	学　習　活　動	指　導　上　の　留　意　点
展開１	本文実施範囲を群読	注意すべき読みを提示しながら判読し、その後群読
展開２	本文　訳の説明	主語などを補いながら実施範囲内の訳をする
展開３	本文内容	問一 「髪は扇をひろげたるやうに」の主語はだれか聞く。 問二 「赤く」の文法的説明を生徒に答えさせる。 問三 「すりなし」の文法的説明を生徒に答えさせる。 問四 主語はだれかを聞く。 係助詞「ぞや」を説明する。 問五 「給へる」の文法的説明を生徒に答えさせる。 誰から誰への敬意なのかも答えてもらう。 問六 「尼君の見上げたるに」の主語はだれか聞く。 問七 生徒に質問する前に（なんめり）と書く。 「なめり」の文法的説明を生徒に答えさせる。 問八 「給ふ」の文法的説明を生徒に答えさせる。 誰から誰への敬意なのかも答えさせる。 問九 「ものを」の文法的説明を生徒に答えさせる。

↑生徒による授業の「授業計画書」

配慮事項

●個々人の個性を理解し合い、それを活かし協力する。
●相手の反応を見ながらより良い対応を工夫する。

授業者の感想（人権教育のねらいに即した感想）

●反応が薄い時は、授業がやりづらかった。
●うなずいてくれるだけでも反応があると、授業を進めやすかった。
●授業をやる側の気持ちがわかった。